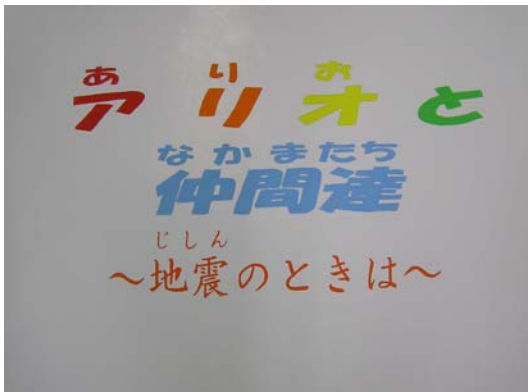




空き地にアリの巣がありました。
そこにはたくさんの働きアリが住んでいました。



アリオ君は、働きアリの子供でした。
アリオ君にはアリゾー君を初めたくさんの友達がいました。
メアリーちゃんも働きアリの子供ですが、一人で遊ぶことが好きでした。



ある日、突然大きく揺れました。
「大変だ」
地震はすぐに止まりました。がぁ、今にも巣が崩れそうです。
「やばい！早く逃げないと！」
と、アリオ君たちは言いました。



アリオ君達は、急いで逃げ始めました。



出口に向かって必死になって登り始めました。



すると、石の下敷きになっているアリがいました。
「よし、みんなで助けよう！」アリオ君が言いました。



けれど、アリゾー君は早く逃げたくて仕方がありません。
「早く逃げないと崩れちゃうよ！俺は先に行くよ！」
と言って、さっさと逃げて行きました。

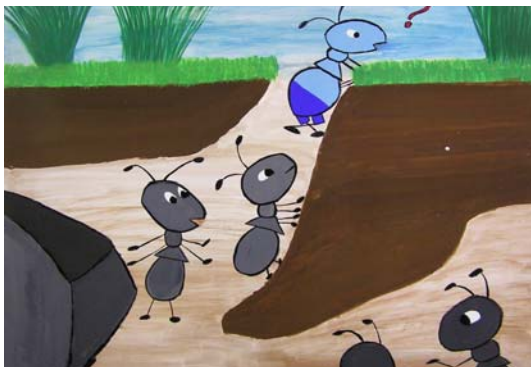


「早く石をどかそう！」
と、アリオ君が言って、みんなで力を合わせて石を
どかしました。
「よいしょ」
「よいしょ×2」
やっとのことで石をどかしました。



「ありがとう、助かったよ」

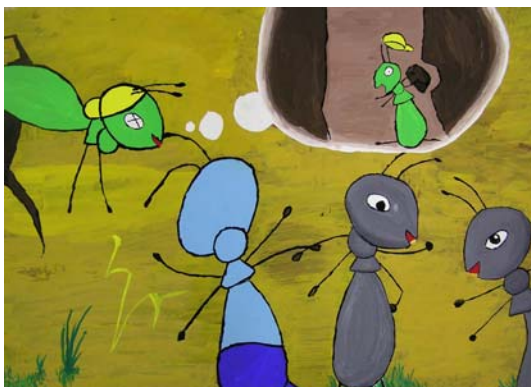
石川県立小松工業高等学校



「さぁ一緒に逃げようぜ」
ようやく地上に逃げることができました。
でも先に逃げたアリゾー君の姿はどこにもありません
でした。



「アリゾー×2」
「どこだー」
と、みんなは探し始めました。すると、
「おーい、俺はここだぞー」
アリゾー君が、穴から出てくるではありませんか。



「あれー先に行ったんじゃないの？」
「うーん、だけどねえ・・・途中で土がくずれて上がれなく
なったんだ。もう必死だったよ」
「ふうん大変だったね、アリゾー君」



「そういえば、メアリーちゃんどこいったのだろう」
「あ・・・ずーっと離れたところで、一人で遊んでいたよねえ
・・・」
「じゃあみんなでメアリーちゃんを探そう！！」
アリオ君達が見つし始めました。



「メアリーちゃーん！！」



「メアリーちゃんどこー——！？」



結局、どこを探してもメアリーちゃんはいませんでした。
「メアリーちゃんどこ行ったのだろう・・・？」
「怪我してたおれているのかなあ？」
「潰されて死んじゃったのかなあ」
「そんなに軽く死ぬって言うんじゃない！！」



すると、メアリーちゃんがどこからかあらわれました。
「どこ行ってたの？メアリーちゃん」
「あのね、部屋で遊んでいたの、そうしたらいきなり揺れたからずっと机の下に隠れていたの」
「ケガしなかった？大丈夫？」
「うん、大丈夫だよ。でもこわかったよお」



こうして、みんな無事に集まることができました。
アリゾー君は反省して、これからはみんなで協力しあっていこうと思いました。
メアリーちゃんも、必ず誰かに自分のことを言っていこうと心にきめました。



ここで、皆さんに注意です。

石川県立小松工業高等学校



自分勝手な行動をすると、みんなに心配をかけるし、
怪我などをしてどこにいるか分からず、助からないかも
しれません。だから、みんなが自分勝手な行動をしない
ように注意しましょう。
黙って外へ遊びに行かないようにしましょう。